

都市環境デザイン会議 北陸ブロック総会

日 時：2016年6月4日（土）
会 場：福井商工会議所国際ホール（福井県福井市）
参加者：上山寛、島津勝弘、武山良三、和田晃、上坂達朗、北川真理、木谷弘司、小泉普、小間井孝吉、坂本英之、島由治、高田実、谷明彦、鏑隆弘、徳本修一、新田川貴之、水野一郎、山岸敬広、埒正浩、川上洋司、倉橋宏典、下川勇、玉森慶三、辻隆治、野嶋慎二、峠岡伸行、鳥越友香里（会員 27 名）

ブロック総会は、会員 27 名のご参加をいただき、議事については滞りなく承認されました。

議事要旨は、以下のとおりです。

<議事要旨>

- ・第 25 期活動報告・収支報告が承認されました。
- ・第 26 期活動計画・収支計画が承認されました。
→次期開催地は、2016.10.14（金）～16（日）に金沢、H29 春は富山。
→活動費は、正会員、準会員 [一般]、準会員 [学生]、特別会員の会費額と会員数による荷重配分方式により配分され、北陸ブロックは 25 万円。
- ・次期ブロック幹事は、鏑隆弘氏の新任（2016.6～2018.5）が承認されました。
- ・報告事項として、理事の玉森慶三氏より、7 月の第 26 期定例総会及び 10 月の全国大会の開催日程、次期理事に埒正浩氏が新任されたことについて報告されました。

- ・定例総会には、北陸ブロックから参加費の支援をすることが承認され、全国大会は、金沢での開催となりますので、より多くの会員にご参加いただきたいと思えます。
- ・JUDI プロジェクト「人口減少・国際化時代における地方都市のデザインあり方～福井市の向かうべきは～」 「地酒文化とまちづくり～北陸 4 県の蔵を訪ねて～」の活動内容がそれぞれ報告され、事務局からは、北川真理氏、竹村裕樹氏、和田晃氏の 3 名が入会されたことにより、北陸ブロック会員は、51 名（準会員 2 名、学生会員 2 名含む）となったことを報告しました。



ブロック総会の様子



左から、ブロック幹事 島津氏、事務局 埒氏、新ブロック幹事 鏑氏

都市環境デザイン会議 in 福井 2016

日 時：2016年6月4日（土）
会 場：福井商工会議所国際ホール（福井県福井市）
参加者：会員 31 名、一般 40 名 計 71 名

フォーラム「これからの地方都市の都市デザインを考える」は、JUDI 北陸メンバー 31 名に加え、一般参加者 40 名、計 71 名にご参加いただきました。

司会・進行は玉森慶三氏が務めました。

■ 基調講演(概要)

- ◆ 「これからの都市デザインが目指す場所
—今、「都市」に期待するものは何か？」
中島 直人氏（東京大学工学系研究科都市工学専攻准教授）
これからの都市デザインは、現実の都市とどう関係を作るのか、こうあるべきだということと実際の都市はかなり差があり、それをどのように考えるか。

都市空間における行為や活動などから、パブリックライフがどのように行われるかを見なくてはならない。単に見るのではなく、小さな介入や実験が大事。そこから引き出される人々の「都市」への期待をどのように感じ取れかという観点が大事。



中島直人氏の基調講演

都市デザインが目指す本当の「都市」というのは、生きる楽しさやそこでの生活する人々のリアリティを感じさせる虚構空間ではなくて、自分を受け入れてくれるような空間が「都市」であり、そのようなものがちりばめられているのが「都市」。

人口減少社会だからこそ、パブリックライフや人数は減るが、活動・滞在時間を延ばせばいいだけでもあり、むしろそちらの方こそ確率や可能性を高めることができるのが都市デザイン。空間から人々の多様な結び付きや触れ合いの確率、可能性を高めることができ、「現実の都市」と「本当の都市」を結び付けることができる。その結果、魅力的なパブリックライフ、あるいはパブリックライフを想起させるような都市空間、人のことを考え、人のなつかしさや人の姿が見える空間がたくさんあると、それには人は引き付けられる。

「都市はどうあるべきか」ということは、「私たちがどう生きられるか」ということと同義で、それは一番の豊かさ。空間も活動や地域や組織が、全体として楽しいということを目指してやっていくべきである。



基調講演の様子

■ パネルディスカッション

●コーディネーター

倉橋 宏典氏 (福井県総合政策部交通まちづくり課 JUDI 会員)

●パネリスト

上山 寛氏 (新潟: 上山アトリエ代表 JUDI 会員)
 武山 良三氏 (富山: 富山大学芸術文化学部 教授 JUDI 会員)
 木谷 弘司氏 (石川: 金沢市役所 定住促進部長 JUDI 会員)
 内村 雄二氏 (福井: 福井工業大学教授 JUDI 会員)

●コメンテーター

中島 直人氏 (東京大学工学系研究科都市工学専攻准教授)

◆「新潟における地方都市デザイン」 上山 寛氏
 海風の通り道をつくる、信濃川やすらぎ提に日陰をつくらないなど、一定の法則のようなものを都市の中における建築や空間づくりに活用する。都市全体の省エネルギーや、建築など構造物の造り方によって道路の造り方も違って来るかもしれないし、一つの都市に暮らすことの快適性のルールのようなものを編み出していくことができる。

◆「ソフトの観点からのまちづくり」 武山 良三氏
 町を維持していくためには、ハードだけではなく、住まわれている方々がどのように生活していけるか。「居場所」とは滞在する場所、働く場所。東京から来て地元の方々と気軽に交流できるような「よりどころ」も不可欠。こうした居場所を担保するためには、移動手段が必要であり、この確保なくして居場所とよりどころを機能させる方法はない。

◆「公共交通を介した都市の集約化を目指して～「金沢市集約都市形成計画」の策定を通して～」

木谷 弘司氏

50年かかってできた市街地で、何かしら変化させるために一つのキーワードになるのは公共交通。20年ベースの目途で作る計画ではあるが、物理的なコンパクトではなく都市の使い方のコンパクト化ということを進めたい。中心部の魅力をきちんと高めていければ、中心部自体と、郊外であろうと、住んでいる人たちとの関係性が高められ、それがお互いに目指していくところではないか。

◆「居場所アラカルト」 内村 雄二氏

居場所の3要件は、ひま、ロハ、非干渉で「閑」。それから「空」がとにかく見える、それとシュール、自分だけの超越した場。そのような場がセットでないといけない。この「空」の意味は、物理的なものと心理的なもの。それと「間」。むだと意味の間、静と喧の間、その辺が微妙にあることで自分は楽しめる、自分を発見できる。総和としてディペンデンス的場である。



パネルディスカッションの様子

＜全体ディスカッションでの主な意見＞

（武山氏） 県庁所在地と高岡の金屋町は全然違うレベル。地方都市というのは、地域にあるしっかりとした地域文化に根ざしたコミュニティーの集合体が地域を支えているという概念を、もっと強く持つべきだ。もう一つは、そこがすごく深刻な状況にあるということ認識しなければならない。放っておくと本当に壊滅し、インバウンドでいくら外国人が来ても、手わざもなければ祭りもない。そうしないために、地方都市の人間はやはり努力しなければいけないが、そこに限界があるので、東京のパワーをいかに引き込むかということが、これらを維持管理していく上での大きなテーマだろう。

（木谷氏） 物理的なコンパクト化より使い方のコンパクト化。一番分かりやすいものは車との関係。もともと市街地が広がった要因がそこである以上、それを避けては通れない。金沢では大都市的な要素がどちらに転がるか分からない。地元でやっている方も、目指しているところがいろいろある。金沢は、まだリトル東京作戦が多少通じている要素はあるが、新幹線の時間・距離の短縮により、それ自体を本当にこの先もできるかどうか。どれだけ地元や地権者の方々、いろいろなところを含めて DID 的な要素をどれだけ取り入れていけるかが、この先の地方都市でやっていく勝負なのだろう。

（内村氏） 物的なもの、それを支えるコミュニティーや人々の活動、両方を基本的に舞台にしてきたのはストックの文化が基本。新しいものをやるときに古いものやストックとのつながりをしっかりとつないでいくということが、地方都市の場合ではできているところと、あまり上手ではないところがある。福井の場合、お城の周辺は唯一歴史のある所として残されている。戦災や地震などがあった関係で、ストックを生かし切れていない。その改造には、実践的にいろいろな知恵を導入し、何よりもコミュニティーや地域を支える人をいかに受け入れるかというのが非常に大事だ。

（上山氏） 新潟は港町であったがゆえにいろいろな人を受け入れてきたが、その半面、なかなかカラーが付きにくかったことがある。新潟の町が川を挟んで新潟町と沼垂町の二つに分かれていて、新潟町の歴史があり、新潟には芸者さんが大勢いて、先斗町などと並んでかなり活気があった。それが、経営が難しかったりして、全国的に廃業したりしているところが多いが、新潟はいち早く株式会社に変えて、

そのような人を養成していこうという団体がある。それも一つの財産で、かなり古いまちなみを中心に残っているので、それを大事にしていこうという空気もあり、それも一つの動きではないか。



左から、倉橋氏、中島氏、上山氏、武山氏、木谷氏、内村氏

（倉橋氏） ニューヨーク市民が、10分以内に公営広場などの公共空間を持っているというのは、行政としての戦略。それに基づいて、地域の組織なりが実験をして、それぞれが目標に合致すれば実現化していくというのはすごい。このようなストックや公共空間をうまく生かしていくというビジョンをどうやって作っていくのか。行政としては全体の絵は描けない中で、このようなプログラムを入れていくというのは一つある。

地方都市では、このようなビジョンを描きながら、コミュニティーベースでどこにどのような空間をつくっていけばいいのかということを経営的にしていくこと、また、空地なりのポテンシャルがどこにあるのかをきちんと探していくことで全体のビジョンを描きながら都市を次のステップにレベルアップさせることができる。

（中島氏） コミュニティー、アソシエーション、大都市など、いろいろな中で楽しみ方はあるが、そうしたところからこぼれている人がいるのではないか。地方都市で人々に対して何か公共機関がメッセージを発すれば、それこそ一番人がなつかしい空間になるのではないか。

■福井駅周辺散策

福井市都市戦略部の堀内部長、釣部調整参事、松山主査のご案内により、グリフィス記念館～新栄テラス～ガレリアポケット&通路～福井駅西口広場～再開発ビル「ハピリン」を見学しました。



おもてなし館

グリフィス記念館



新栄テラス



ガレリアポケット&通路



路面電車の延伸部



再開発ビル「ハピリン」

新栄テラスは、まちなかに点在する青空駐車場を活用して、魅力向上と賑わい創出、回遊性向上を図っています。また、ガレリアポケット&通路は、南通りから鳩の門通り、西武福井店を結ぶ歩行者専用道路で、中央1丁目全体の回遊性向上、賑わいの創出を目的としています。

■ 懇親会

会 場：ユアーズホテル 3F ボヤール
参加者：会員 24 名、一般 7 名

恒例の懇親会は、JUDI 北陸メンバー 24 名と見学会をご案内いただいた福井市の皆様にもご参加いただき、美味しいお酒と料理を楽しみながら大いに盛り上がりました。



川上先生の乾杯でスタート



旧ブロック幹事の島津氏と新ブロック幹事の鏑先生

■ 今庄宿見学会

日 時：6月5日（日）9：30～13：30
場 所：福井県南越前町今庄

参加者：上山寛、島津勝弘、上坂達朗、木谷弘司、小泉普、島由治、高田実、谷明彦、鏑隆弘、徳本修一、新田川貴之、水野一郎、埜正浩、加藤哲男、川上洋司、下川勇、玉森慶三、野嶋慎二、峠岡伸行、宮里宜雅（会員 20 名）

【お問合せ先】

都市環境デザイン会議北陸ブロック
幹 事 ● 鏑 隆弘（金沢美術工芸大学教授）
事務局 ● 埜 正浩・高永智恵（㈱日本海コンサルタント）
TEL 076-243-8281 / FAX 076-243-8309
E-mail m-rachi@nihonkai.co.jp

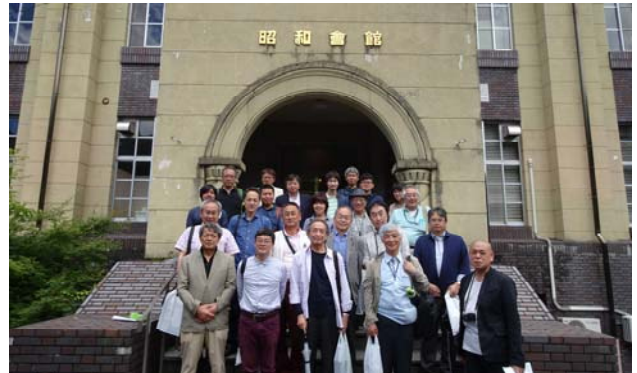
2日目は、地酒文化とまちづくり～今庄宿を訪ねてと題し、今庄宿プロジェクト協議会の朝倉事務局長に、今庄宿の町並みと4軒の酒蔵（堀口酒造(有)（鳴り瓢）、(資)北善酒造（聖乃御代）白駒酒造(資)（白駒）、畠山酒造(株)（百貴船））をご案内いただきました。今庄宿は、南北の入口に「かねおり」という曲がり角があるのが特徴で、福井藩本陣跡や脇本陣跡、旅籠若狭屋は内部の見学もさせていただきました。また、白駒酒造(資)では、おかみさんの京藤禎子さんに酒蔵の造りなどをご説明いただき、内部を見学しました。



白駒酒造(資)での説明の様子



今庄宿プロジェクトの説明



集合写真

当初の予定にはなかった板取宿にも立ち寄り、住人の南さんに内部を見学させていただきました。



板取宿の家並み

● 北陸ブロックの今後の活動予定

- ◇都市環境デザイン会議 第26期定例総会 in 東京
日 時：2016年7月23日（土）14時00分～
会 場：日本大学理工学部駿河台キャンパス
- ◇都市環境デザイン会議 全国大会 2016 in 金沢
日 時：2016年10月14日（金）～16（日）
会 場：石川県金沢市
- ◇都市環境デザイン会議 in 富山
日 時：2017年春頃 会 場：富山県

JUDI 北陸ブロックホームページ
<http://www.judi-hokuriku.gr.jp/>
JUDI 北陸ブロック Facebook ページ
<http://www.facebook.com/judi.hokuriku>